

社会資源とは

社会資源とは……

福祉ニーズを充足するために活用される施設・機関、個人・集団、資金、法律、知識、技能等々の総称である。

(出典 改定社会福祉用語辞典 中央法規)

地域調査について

目的

- 住民どうしの“支えあい”の状況や溜まり場を観察・把握し、そのうえで、より良い町をつくるために、どんな支援や仕組み(社会資源)が必要なのかを探る。
- 地域に住む人々で、町内会などで中心的な役割を担っている方々や、何か活動をしたいと考えている方々、目立たないが地域の方々にとって有意義な活動をしている方々などを掘り起こし、ネットワークを築くきっかけをつくる。

調査の方法

「調査の方法」調査対象：一つの小学校区の地域。住民のお宅を訪問し、聞き取り調査を行いました。

調査担当者は2人1組で行いました。

1人は

会話の端緒を作る。

相手から話を引き出す雰囲気づくりをする。

調査の方法

住宅地図(小学校区域)に情報を記入する。
終了のタイミングをはかる。...という役割。

もう1人は

話の内容を克明にノートに記入していく
必要に応じて写真撮影する。...という役割。

調査の場:主に、調査に協力してくださる方の
自宅やお店。町内の集会所や、市民センター。

調査の方法

調査にご協力いただいた方々

学区連合町内会の役員(各町内会長・副会長)

地区社会福祉協議会の役員・民生委員

地域の住民の方々

商店街やその周辺のお店

市民センターを拠点に活動しているサークル

に関わっている方々

老人クラブの役員の方々

地域の方々との関わりを通して 気づかされたこと - 1

- (1) 地域の中には、「福祉施設」「福祉サービス」
としての看板を掲げていなくても、そのような
機能を担っている人や、お店などが存在して
いることがわかった。

地域の方々とのかかわりを通して 気づかされたこと - 2

(2)地域を知るには、その地域の“世話焼き屋さん(キーパーソン)”と親しくなることが大事

地域の方々とのかかわりを通して 気づかされたこと - 3

- (3)住んでいる場所が近いということだけで“地域(コミュニティー)”というのではなく、ある程度、住んでいる住民同士がお互いのことを知り合っているということが地域の条件になってるのではないか。
- (4)高齢者同士(老人クラブのメンバー等)で、よく話に出るのは、福祉サービスの利用や福祉施設への入居の必要が生じた場合は、近所ではなく離れた地域の施設を利用したいということ。認知症(痴呆)になったり、自宅で老いてゆく姿を地域の方々にあまりみられたくないという心理が働くのではないか。

地域の方々とのかかわりを通して 気づかされたこと - 4

- (5) 要介護認定を受けていても、家族などの抵抗があってサービスの利用に踏み切れないでいるケースも多い。深刻な問題を抱えている家族ほど、「周囲に迷惑をかけたくない」という思いを抱えていて、自分たちだけで抱え込んで苦勞している。家族が福祉サービスの利用を望んでいても、高齢者本人のプライドが邪魔して利用に踏み切れないケースもある。